

## 第11回 町長定例記者会見

- 開催日時 平成28年11月30日(水) 午前11時～
- 開催場所 遠軽町役場2階応接室
- 記者数 5人

報道機関の皆様におかれましては、日頃より町政など地域の情報を町民にお届けいただき、心からお礼申し上げます。

それでは、今回の議題についてご説明申し上げます。

### ■平成28年第9回 遠軽町議会（定例会）に提出する案件から

#### ・財産の無償貸付について

これは、丸瀬布上武利の旧丸瀬布町立武利小学校と体育館を無償で貸し付けることについて、議会の議決を求めるものであります。

貸し付けの相手方は、丸瀬布上武利地区のマウレ山荘を運営する碧雲堂(へきうんどう)ホテル&リゾートであります。

同社は、現在も、この同校舎を利用した美術館「マウレ・メモリアル・ミュージアム」を展開し「口と足で描く芸術家協会」の協力のもとに、貴重な美術品をはじめとした、数々の作品を展示しております。

このたび、この美術館をリニューアルしたいという申し出を受けまして、体育館を加えた土地と建物を無償で貸し付け、さらに同社と協力しながら施設改修を行うことで、さらに内容を充実し、いこいの森から同ホテル、山彦の滝などと併せて、遠軽町観光資源の充実とイメージアップにつなげるものであります。

#### ・補正予算について

主なものにつきましてご説明いたします。

現在、(仮称)えんがる町民センターの建設に向けて、用地の確保とともに、基本設計及び実施設計の受託事業者選定について、プロポーザル方式にて実施をしております。この基本設計、実施設計に、町民の皆さんの意見を反映させるため、建設検討協議会を設置いたします。この、検討協議会を実施するにあたり、アドバイザーを招へいするための経費を計上しております。

今月、大阪城ホールにおいて「第35回全日本小学校バンドフェスティバル」と「第29回全日本マーチングコンテスト」に、遠軽小学校、東小学校及び南小学校の合同チーム86人と、遠軽中学校吹奏部37人の計123人が出場しております。このような子どもたちの活躍をさらに支えるためにも、この町民センターが「吹奏楽のまち えんがる」を標榜する、より良い施設となるよう取り組んで参ります。

次に、来年3月頃に旭川・紋別自動車道、丸瀬布瀬戸瀬間が開通予定であることから、記念事業を実施するため、実行委員会に対する負担金を計上しております。

また、8月の台風により、甚大な被害を受けたいこいの森の軌道、線路などを復旧する経費を計上しております。

この、いこいの森、特に雨宮21号を心配する声が全国から寄せられておまして、この復旧に向けて支援したいという申し出もいただいております。町といたしましては、皆様のお気持ちの受け皿として、ふるさと寄附金制度を活用させていただき、すでに500万円を超える寄附をいただいております。災害復旧ということもあり、他のふるさと寄附金で行っている返礼品はご遠慮いただいておりますが、5,000円以上の寄附をいただいた方には、来年度、雨宮21号に無料で2人までご乗車いただける特典をご用意しております。町

としましても、いこいの森にお越しいただく皆様に楽しんでいただけるよう、復旧に取り組んで参ります。

次に、その他の件についてであります。

#### ■遠軽厚生病院産婦人科について

この件につきまして、皆様すでにご承知のとおり、8月16日に石川さんという医師が着任して、同月22日から診療を開始しておりました。このたび、石川医師着任後初めての出産が、11月4日にありましたのでご報告いたします。

昨年10月以来、1年1か月ぶりに本町のお子さんで誕生したのは、元気な女の子でありました。また、同日には、紋別市在住の方のお子さんも誕生しておりますし、また1人、その後にも生まれているということでございます。母子ともに順調であるという報告を受けております。町民を代表してお祝いを申し上げますとともに、今後も町内で安定した出産ができるように頑張っていきたいと思っております。

地域の人口減少が進むという中で、遠軽町内で安心して出産ができる体制を維持することは、今後の遠軽町のまちづくり、また、紋別市など近隣を含めた地域づくりに欠かせないことでもあります。そのため、遠軽町、湧別町、佐呂間町の3町で構成します遠軽地区総合開発期成会で「遠軽地区地域医療対策連携会議」を組織しまして、出産の完全な再開に向けて、今までさまざまな要請活動を実施して参りました。

今年度におきましても、9月に全国252の医育大学、公立病院等に勤務する2,021人の医師を対象に、当地域の医療の現況や、視察の勧誘を行うパンフレット等を同封した医師招へのダイレクトメールを送付いたしました。

10月には、北海道厚生連及び遠軽厚生病院院長と私、湧別町、佐呂間町の3町長で、東京都内の病院に現在の状況報告と今後の協力要請等も行なっております。さらに、これから12月に、首都圏の電車内、京浜東北線を考えておりますけれども、その電車1車両ずつ10両ほどですが、中吊りの広告、ドアにもそういう遠軽厚生病院の実情を訴える広告を1週間ほど掲示しまして、さらにそれに合わせて、週刊文春に地域の、遠軽厚生病院産婦人科の記事を掲載してもらうということで、先般出張の折には1時間ほどインタビューを受けて来たところでございます。これについては、広く地域の医療の窮状を都市部の人に訴えていかなければならない。そういったことがないと、何とかその都度医者を見つけてきたとしても続くものではない。これは国における制度改正をしていただかない限り、この現状は変わらないと思っております。地域の人々はみんな同じように分かっているわけですが、都市部の人たちに理解を得なければならないということで、こういったことをこれからも続けてやっていきたいと思っております。

この出産再開につきましては、遠軽町に産婦人科医を確保しようという多くの皆さんの気持ち、出産再開という嬉しい結果に結びつきました。ご尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げたいと思っておりますし、これからもあと2人、3人体制に戻すためにしっかりと取り組んで参りたいと思っております。

#### ■えんがる球技場について

福路地区に着工しておりました「えんがる球技場」が、完成の時期を迎えました。

この球技場は、町民の皆様にご利用いただくことで、スポーツの裾野を広げる柱になるとともに、まちの産業の一つにもなっている合宿誘致に、大きな力になるものと考えております。

また、遠軽高校の維持についても、この施設が合宿等も通じて貢献してくれると思っておりますし、町としても、スポーツ施設の維持という観点からも考えて、今まで天然芝でやっており

ましたけれども、激しい使い方が続くと1年休まなければといったことが続いておりました。維持経費の面でも大幅なメリットがあるということでございます。

この施設の指定管理者につきましては、NPO法人遠軽町体育協会とすることで、本議会に提案しております。

### ■白滝ジオパークについて

白滝ジオパークについては、平成26年の再認定審査におきまして「条件付き再認定」となりまして、緊急に解決すべき課題として「組織体制の見直し」と「マスタープラン及び年次計画の策定」の2点が指摘されまして、2年後にそれが解決されているか、再審査が行われるということでございまして、その再審査が、11月4日から6日までの日程で行われました。

日本ジオパーク委員会、専門家の組織でございまして、そこから中田節也副委員長、橋詰委員、日本ジオパークネットワークから霧島ジオパークの坂之上さんに来町いただきました。日本ジオパークネットワークというのは、ジオパークを構成している自治体、組織の集まりでございます。

審査の期間中は、拠点施設であります、「ジオパーク交流センター」や「昆虫生態館」などのジオサイトを訪れまして、実施している教育や保全活動について報告を行うとともに、前回の審査で指摘された課題の解決に向けた、この2年間の活動について報告をいたしました。

最終日に行われた意見交換会では、課題については解決に向けて組織した白滝ジオパーク推進協議会のワーキングチームを通してよく改善されていること、そしてまた、丸瀬布昆虫同好会をはじめとする地元団体の保全・教育活動は高い水準にあることが述べられました。

一方で、遠軽地域を含めた町内全体にジオパークの活動を広げていく重要性や、来訪者へのホスピタリティ不足が指摘されたところもございました。

ジオパークは4年ごとの再認定審査が義務付けられております。常に良い方向へ取り組み続けていくことが求められておまして、今回の審査で指摘された事項は全て、ジオパークをさらに良くしていく土台になると考えております。

なお、審査結果は12月9日に開催される、日本ジオパーク委員会で決定されます。審査にご協力をいただいた関係者の皆様に深く感謝を申し上げ、良い結果を待ちたいと思っております。

### ■JR北海道「持続可能な交通体系の在り方」について

11月18日に「JR単独では維持することが困難な線区」について、正式に発表がありました。この線区につきましては、石北本線も含まれておまして、老朽化した車両や土木構造物が多く存在し、更新も含め、持続的に維持するための費用が確保できない状況とのことであります。そのため、利用の少ない駅の廃止や列車の見直し、運賃の値上げ、上下分離方式などの点について、地域とも相談し、輸送サービスを鉄道で維持すべきか、他の代替輸送サービスの方が効率的で利便性が向上するのかを検討したいと、JRのお話でありました。

町といたしましては、これまでも、オホーツク圏活性化期成会や沿線自治体と連携して要望活動を行ってございまして、今後も北海道などの関係機関とも連携しながら、しっかり対応して参りたいと考えております。

### ■冬季のイベントについて

来年2月26日に、国内最長コースを誇ります「湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会」が開催されます。この参加申し込みが、明日12月1日から始まります。ぜひ多くの皆様に白銀の湧別原野を満喫していただきたいと存じます。

3月8日から10日には、ロックバレースキー場を舞台に「FISファーイーストカップ2017」が開催されます。この大会は、国際スキー連盟公認のアルペンスキー大会でありまして、北海道では初めて開催されるものであります。大会は、3月3日から5日に札幌市で行われた後、遠軽町を舞台に開催されまして、日本をはじめ、韓国、中国、ロシア、スイス、イギリスなど16か国から、ワールドカップ出場を目指す150人の出場を見込んでおります。大会の開催にご尽力いただく皆様に感謝申し上げるとともに、国内外トップクラスの選手たちの姿をぜひご覧いただきたいと思っております。なお、本議会に、この大会実施に対する補助金の補正予算を計上しております。この大会は、長野オリンピックの後、長野県で開催を続けておりまして、中々北海道では開催できなかったのですが、町内のスキー関係者のつながりなどから遠軽町での実施となり、あらゆるスポーツを通じて初めての国際大会が開かれるということでもあります。

また、例年、巨大な氷柱となり、多くのお客様にお楽しみいただいている、冬の山彦の滝観察会とナイトツアーにつきまして、残念ながら8月の台風により被害を受けた道道が通行止めとなっております。今年度は中止いたします。冬季観光の目玉の一つであっただけに残念ですけれども、来年以降の夏、そしてまた冬に、その神秘的な姿が見られるよう、一刻も早い復旧を願っているところでございます。